

Web会議システムを活用した市民向け多地点同期型防災講座の実践

徳島大学環境防災研究センター 中野 晋・○鳥庭 康代

Web会議システムを活用した防災講座開設の経緯

本センターでは、平成19年度から徳島県と連携して防災士養成事業(徳島県地域防災推進員養成事業)を実施している。昨年度までは徳島大学の1会場で開催していたが、県西部や県南部からは徳島市内まで車で2時間以上かかる所もあり、こうした遠隔地の市民から近場での開催の希望が出されていた。少しでも多くの方に受講していただく機会を提供するため、平成28年度から、県西部の美馬市と県南部の海陽町にサテライト会場を設置し、徳島大学からの講義をWeb会議システムで、リアルタイムでサテライト会場でも受講できる多地点同期型の防災士養成講座を開催することとなった。

サテライト会場においても本会場(徳島大学)に準じたレベルの実習指導や質疑応答等に対応できるように、教員や教員に準じる災害・危機対応マネージャー®を配置して、実施した。

Web会議システム*を活用した講座

遠隔会場の状況
(講師用: 質疑応答)

会場撮影・
制御用PC



講師用PC
(資料共有・音声)



メインPC

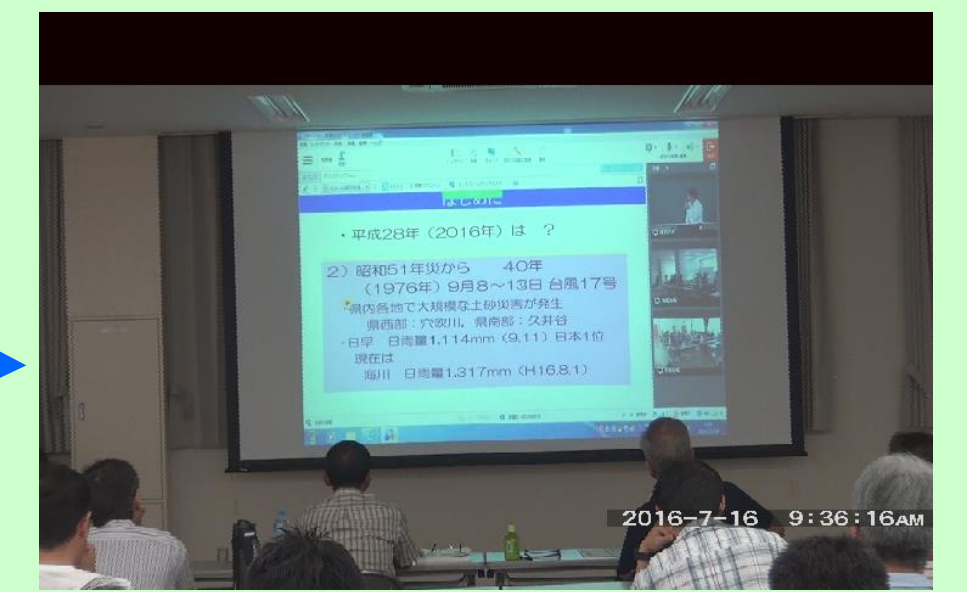
遠隔会場への配信確認
・遠隔会場のPCの操作
・映像(動画)・音声

*ブラザー工業, Omnijoin ビジネスフレックスプラン5
SKNET MonsterX Live, SONY HD ビデオカメラなどを利用

開催会場



徳島会場: 7月10日(Ⅱ)「医学と災害」 西村 明儒



海陽会場: 7月16日(Ⅰ)「徳島県の水害対策」 徳永 雅彦

カリキュラム内容

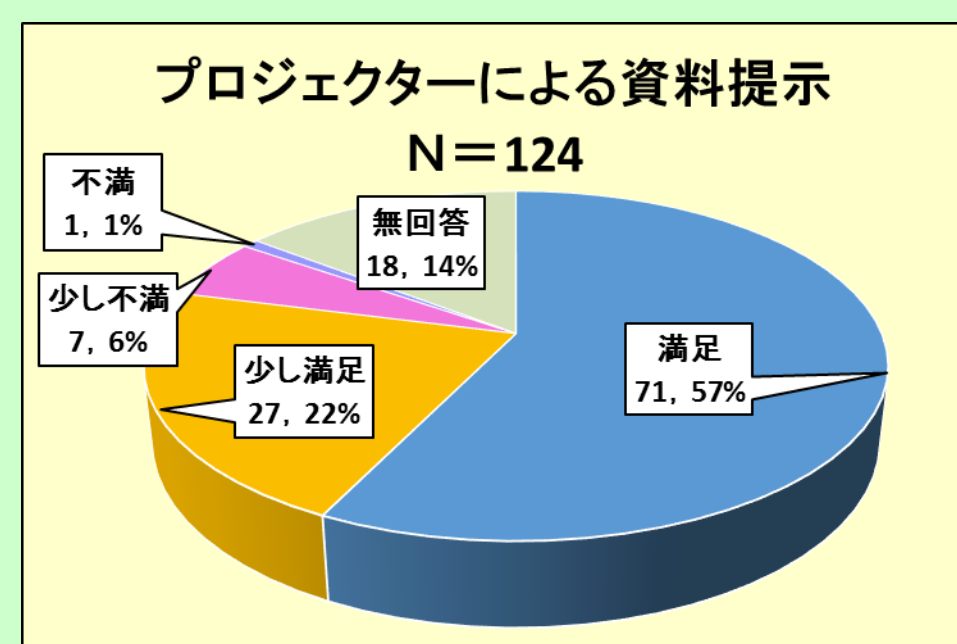
本講座のスケジュールを右図に示す。最終日を除き、1日5講、5日間の講座で構成される。講義(60分)を19講、実技演習(90分)を4講、計23講であり、防災士教本に準じた講義に加え、徳島県での災害状況や防災の取り組みについて学ぶことができる。

今年度は徳島会場102名、美馬会場22名、海陽会場26名、計150名が受講した。防災士養成講座は対面式講義を行うことが必須となっているため、Web会議システムによる講座を開設するにあたり、遠隔会場に1名以上の指導教員を配置し、サテライト会場でも対面式で直接指導が可能な体制が整えられた。また、防災士資格には普通救命講習を受講していることが条件であるため、このカリキュラムの他に受講できるよう配慮している。

月日	曜日	I	II	III	IV	V
		9:30~10:30	10:45~11:45	12:45~13:45	14:00~15:00	15:30~17:00
7月2日	土	開講式/防災士とは 徳島大学教授 中野 晋	地震災害 徳島大学教授 村田 明広	土砂災害・火山災害 徳島大学准教授 西山 賢一	強風・竜巻災害 徳島大学教授 長尾 文明	クロスロードゲーム 徳島防災リバースタジオ主宰 金山 利勝
7月9日	土	風水害 徳島大学教授 武藤 裕明	ライフライン被害 徳島大学教授 上月 康則	大災害からの復旧・復興 徳島大特任講師 轟 一樹	火災 徳島市消防局予防課 広瀬 英憲	避難所運営訓練 徳島大学環境防災研究センター 三上 卓
7月10日	日	津波災害 徳島大学教授 馬場 俊幸	医学と災害 徳島大学教授 西村 明儒	災害医療 県立中央病院部長 三村 誠二	被災者の心理ケア 徳島大学教授 佐藤 健二	災害図上訓練 徳島大学教授 中野 晋
7月16日	土	徳島県の水害対策 徳島県土整備部副課長 徳永 雅彦	危機管理とBCP 徳島大学助教 湯浅 恭史	建物の耐震化 徳島大学教授 小川 宏樹	災害ボランティア 四国大学教授 日開野 博	ローテク防災術 香川大学特命教授 松尾 裕治
7月24日	日	(研修予備日)	(研修予備日)	(研修予備日)	(研修予備日)	(研修予備日)
7月30日	土	徳島県の南海地震への取組み 徳島県とくしまゼロ作戦課 課長 坂東 淳	地震と気象の情報 徳島地方気象台 次長 清水 栄一	南海トラフ地震への備え 徳島大学教授 中野 晋	修了式 徳島大学・徳島県	防災士試験 日本防災士機構

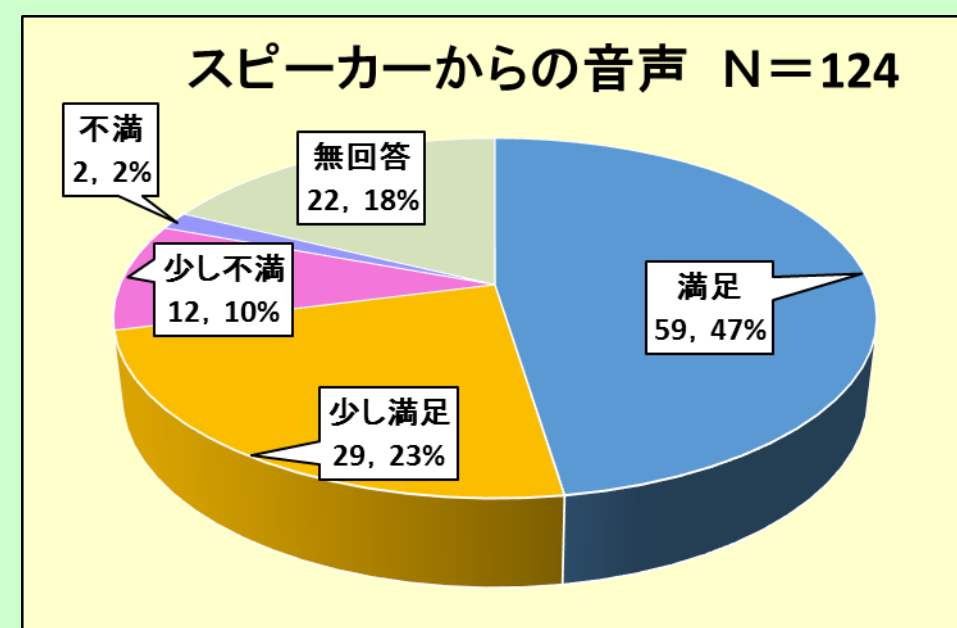
5日間23講 = 【講義(60分)・19講, 実技演習(90分)・4講】

受講者アンケートの結果



【プロジェクト画面へのご意見】

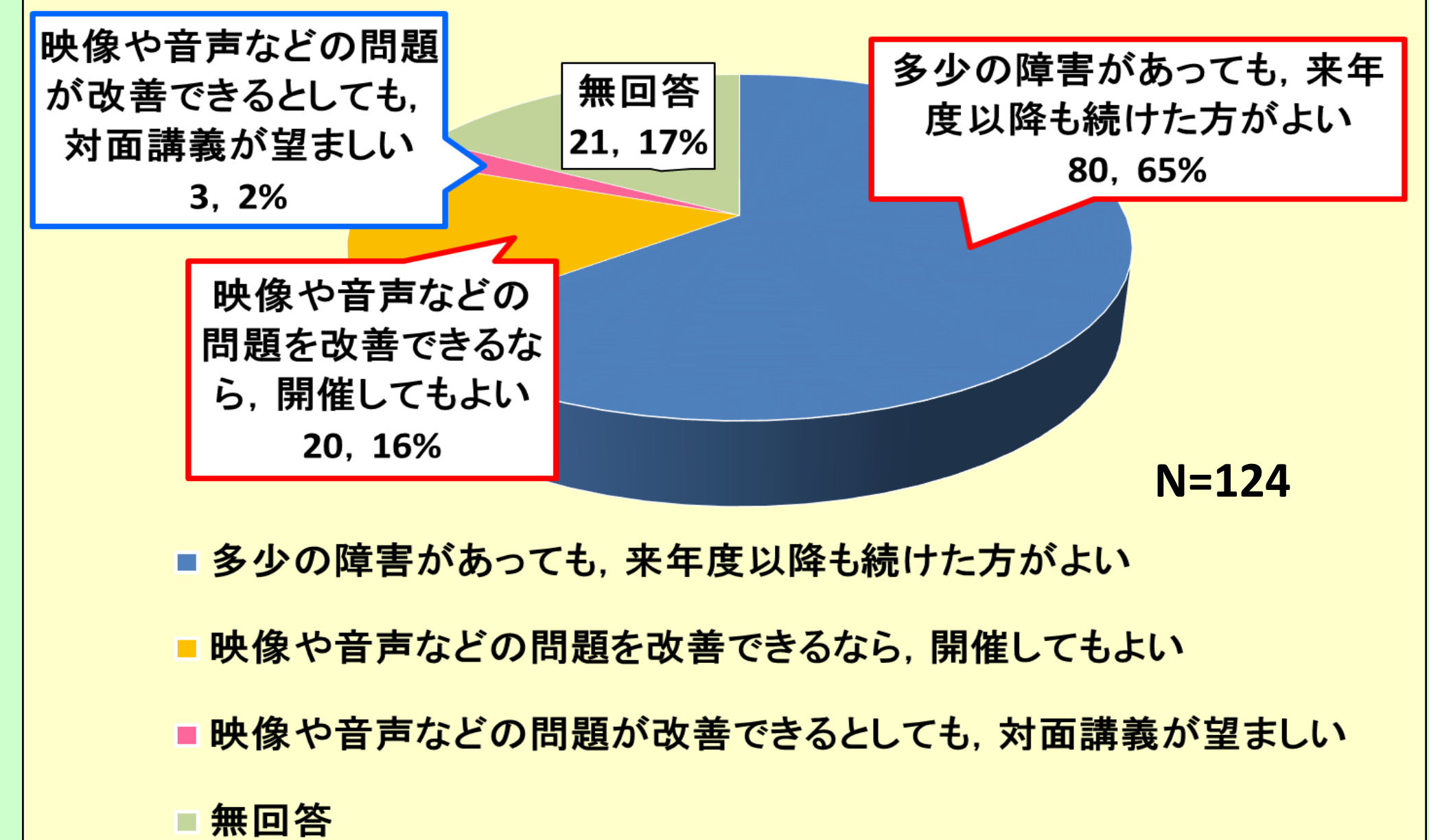
- ・字が小さい。
- ・資料の情報が豊富すぎ、印象に残りにくい。
- ・資料画面と配布レジュメを同じものにしてほしい。



【スピーカー・音声へのご意見】

- ・前列は音が大きすぎ、後列は小さく聞こえない。
- ・声の割れが有り、もう少し鮮明さが欲しい。
- ・講師の話し方によって聞きやすさが変わる。
- ・遠隔会場からの音声が小さく、講義途中の音声(質疑応答など)が聞き取れなかった。
- ・遠隔会場では臨場感がない。

【Web会議システムの活用について】



今後の課題について

Web会議システムを使用した講座で、画像(資料提示)は、図などカラーで見やすく「満足」(71%)とされる中に、1シートに情報や内容を詰め込み過ぎず、配布資料もそれに併せ小さいものから4カットなど大きな資料のものが好まれた。

音声についても「満足」(59%)とされる一方、音の割れや音がこもるなどの指摘が多い。また、3会場間で音声レベルの細かな調整が必要で、音声レベル調整に慣れていないこともあり、遠隔会場からの音声が小さくなることがあった。Web会議システム固有の操作を講師が行わなければならない時もあり、その場合には講義の途中に係員がPC操作を行う必要が生じた。いくつかの課題は見られたが、多少の障害があっても継続すべきとの意見が多く、今年度生じた課題を改善しつつ、来年度も継続実施したいと考えている。